

第4回 IFNEC 執行委員会会合（2013年10月24日）

近藤原子力委員会委員長 挨拶文（仮訳）

議長有難うございます。

閣下、各国代表団の皆様、ご列席の皆様、

まず、ここアブダビにおいて IFNEC 第4回執行委員会会合を主催いただいたアラブ首長国連邦政府に対して、心より感謝申し上げます。

議長、福島第一原子力発電所の現場及び周辺地域の状況についてご報告させていただきます。

福島第一は、サイトの帯水層に流れ込み汚染した地下水が海水に達することを防ぐなど、多くの課題を抱えています。我々は、海水汚染のリスクを出来る限り低く抑える深層防護を進めております。

損傷した号機の廃炉について、計画通り11月から4号機にある未使用及び使用済燃料の取出しを始めます。並行して、高い放射線の環境下で行われる様々な作業のために、ロボットや遠隔操作装置の開発を含め、汚染水やコア・デブリに対応するための主要な研究開発プロジェクトを進めています。

周辺地域の課題について、政府は事故で被災した地域の除染作業を進めていますが、依然として8万の人が避難を要請されており、ほぼ同数の人が自主的に避難をしていることを申し上げなければなりません。これは、政府が住民との間で、家屋の除染方法や除染廃棄物の一時保管場所について合意に至るのに時間がかかっているためです。政府は、これまでの住民との協議において得られた経験を基に、作業の日程見直しを進めています。

この機会に、国際社会から差しのべられた多大な支援と援助に改めて心より感謝申し上げます。除染や廃炉は前例のない作業であり、我々は、これらの作業を進めるために、世界中にある最も先進的な知識や専門的技術を活用したいと考えており、国際社会からの勧告や提案を歓迎いたします。

議長、日本の原子力発電事業者は、厳しい外部ハザードに対するプラントの安全機能を強化した後、原子力規制委員会が7月に制定した新規制基準への適合

の確認のために、14基の申請を提出しましたが、その審査には最低でも6か月はかかります。政府は、停止中の原子力発電所が原子力規制委員会の基準に適合すれば、重要な電力源として再稼働への支援を明確にしています。

また、政府は、福島での原子力発電所事故からの経験と教訓を共有し、日本の原子力エネルギー技術を活用したい国々にそれらの技術を提供することによって、世界の原子力安全の強化に貢献することが日本の責務であると明言しております。政府は、持続可能な開発目標を満足し、安全な、堅牢な、そして、経済的なエネルギー供給を確保する新しいエネルギー政策の一部として、今後の原子力エネルギー開発に関する議論を進めています。

議長、私は、セキュリティや地球温暖化防止を確保するために、安全な、堅牢な、経済的な、そして、平和的な方法で原子力を活用することを重要と考える多くの国にとって、ここが有益な議論の場となることを心より願っております。安全な、堅牢な、そして、経済的な原子力の利用を確保するために、IFNECが革新的なコンセプトやスキームを蓄積した経験やそれらを探求する経験を相互理解するためのフォーラムであり続けることを期待しております。

ご清聴ありがとうございました。